

## 産廃の焼却炉、設置反対

### 追分町で住民が廃棄を求めて運動

追分町の東名阪自動車道の近くに、廃プラスチック焼却炉の建設が3月中旬ごろから始まり、これを知った地元住民が反対運動に立ち上がっています。この場所で一昨年に「北勢クリーン」という会社が廃プラスチックの中間処理施設をつくりましたが、周辺に迷惑はかけないとの説明でした。ところが、今回その隣に「旭物産」という会社が、廃プラを燃料としたボイラーを設置して温水を使う「養魚場」を建設するというのです。

### 「ボイラー」なのか？焼却炉なのか

業者はこの施設は焼却炉ではなく「農業用ボイラー」である、北勢クリーンで製造した廃プラを燃料とし、最大年2万トンが焼却可能、24時間稼働すると説明しています。

しかしこれは、「焼却炉」ならば周辺住民の同意や公害対策が求められるのに対して、「ボイラー」ならばそのような手続きがいらぬという理屈を使って、養魚場よりも燃料として廃プラを燃やすことが目的ではないのか、が最大の疑問になります。こんな場所で大きな経費をかけて魚を養殖する事業の、採算がとれるはずがないからです。

このような理屈で産廃の焼却処理が許されることになれば、追分町だけでなく市内のどこにでも同じような施設が可能になり、問題はさらに広がっていきます。鈴鹿市はプラスチックごみをきちんと分別し、燃やさず固めて埋立て処分しています。その一方で、民間業者が焼却炉を作ることが認められれば、ごみ行政は機能しなくなります。

追分町と周辺地域の住民は署名運動をすすめ、県と市にこの焼却炉の設置を認めないように求めています。

# 今年**は**文教福祉委員会になりました

5月15～16日の臨時市議会で、議会役員の改選が行なわれました。今期最後の役員は、次のように決まりました。

議長 市川義高      副議長 大谷 徹      監査委員 彦坂公之

共産党市議団の役職は次のとおりです。森川議員は初の常任委員長です。

森川ヤスエ      総務常任委員長      新エネルギー問題特別委員

鈴鹿亀山広域連合議会議員

石田 秀三      文教福祉常任委員      地震対策特別委員

国民健康保険運営協議会会長

---

## 6月議会、一般質問は14～16日に

市議会6月定例会の日程は、8日開会、27日閉会の予定です。一般質問は14日(水)～16日(金)で、CNS20チャンネルで実況中継されます。各議員の質問順序やテーマは、8日に決まります。

---

## 原水爆禁止平和行進は13～14日

広島・長崎の原水爆禁止世界大会に向けての平和行進が、今年も行なわれています。鈴鹿市を通るのは13日午後から14日午前の日程です。13日は私も歩きます。皆さんもいっしょに歩きましょう。

13日(火) 午後1時 高岡町公園 ～ 2時30分 神戸公民館 ～

午後3時30分 市役所庁舎

14日(水) 午前9時 白子体育館 ～ 10時 白子公民館 ～

午前11時 鼓ヶ浦公民館 ～ 津市へ

原爆写真展は、8月3日～6日 市立図書館で開催します。

---

### 9条の会すずかの行事

あの靖国神社「遊就館」で上映されているビデオを観ます。

6月11日(日)午後1時より 鈴鹿市文化会館2階研修室

# 「学校経営品質」とは、何でしょう？

このごろ小中学校で「学校経営品質」という言葉が、よく使われるようになってきました。三重県教委が3年ほど前から導入し、鈴鹿市でも昨年から各学校で取り組んでいるとのことでした。

「経営品質」という考え方は、民間の会社などが経営をすすめるためのマニュアルのようなもので、立てた目標や計画を達成度の点数で評価し、その向上を図るといったものです。これをそのまま教育に当てはめたのが、三重県版「学校経営品質」で、「全国初の試み」とされています。

しかし、利益を目的とする会社のやり方を、人間を育てる教育に応用することには、多くの疑問があります。「顧客本位」＝「学習者本位」、「社員重視」＝「教職員重視」、「経営幹部のリーダーシップ」＝「校長のリーダーシップ」と言い換えて、学校を工場のように見ることとなります。

また、その取り組みの評価をすべて点数に換算し、総合評価をA A AからDにランク付けすることは、各学校を「良い学校」「悪い学校」に分けて、競争をあおることにつながる恐れもあります。

そもそも30人学級や教育環境の充実への努力も半端な県教委が、一方でこのような精神運動をすすめることには、違和感をおぼえます。今後も注意していく必要があります。

---

## 社会保険事務所の事件から思うこと

各地の社会保険事務所で、国民年金保険料を本人の申請なしで免除していた事件が、大変な犯罪のように報道されています。しかし、免除された人は低所得などの条件には合っている人で、正式に申請すれば免除になったのです。所得をごまかして不法に免除にしたのではありません。

いま生活が大変で、月13,680円の年金保険料が払えず「未納」の人が多くいます。「未納」のままだと将来の年金受給資格がなくなるので、きちんと「減免」申請をしておくことが必要です。この手続きは自分でするのが原則で、役所の方から「あなたは減免できますよ」とは言ってきません。今回の社会保険事務所は、それを親切に知らせてくれたり、手続きを代行してくれたとも考えられます。私は、ルール違反ではあるが、そんなに重大な犯罪だとは思いません。それよりせつかくの機会ですから、もっと減免の手続きを手軽にできるように改善してはどうでしょうか。

ずいそう

## どうすれば騙されないか？

5月21日、四日市9条の会で講演した立命館大教授・安齋育郎氏は、プロ並みのマジックの達人でもある。この日もトランプのマジックを交えて、面白く話をされた。安齋氏は3枚のカードを示して、真ん中のカードだけ黄色だと見えたのが、あっという間に白に変わって聴衆をビックリさせた。そのあと種明かしをして、実は黄色に見えたカードは「一部分だけ黄色」だったのだが、聴衆は「隠された部分も、全部黄色いに違いない」と勝手に勘違いしたのだと説明した。

### 情報を正しくとらえる合理的な批判力を

つまり安齋氏は、「部分的情報から安易に全体を推定するのは危険だ」という実例を示したのである。そして、小泉やブッシュの情報操作、それに追随するマスコミの流す情報に、いかに騙されずに正しい全体像をつかむかに努力する大切さを強調した。

たとえば去年の選挙の時、「郵政民営化こそ改革の本丸だ」と叫び続けた小泉自民党が毎日のマスコミを独占して、国民もその問題が最大の争点かと勘違いしてしまった。またこの間は、民主党の「偽メール事件」が長々とマスコミで報道されている間に、医療改悪などの重要法案は衆議院ではろくな審議もされずに通ってしまった。このように情報操作が日常的にすすめられていることに、我々はもっとしっかり対処する必要がある。

### 事態をリアルに考えることのできる想像力も

もう1人の講師、俳優の天野鎮雄氏は、「イラクやアフガニスタンへの爆撃のニュースを見て、その下には生きている多くの子どもたちや老人たちがいることを、画面に映っていなくても想像はできる。爆撃する側にそんな想像力があれば、決してできないだろう」と語った。テレビゲームのような画面に騙されずに、そこでどんなことが起こっているかを想像できる力が必要ではないか、と問いかけた。戦争や平和を、その場にいる人間の問題として考え議論することが大切だ、と感じた話であった。